

ウイルかわら版 will

平成二十二年
七月号

第十二号

編集 吉澤 隆
協力 内田和也
(株)吉澤企画)

暑中お見舞い

申し上げます

遅ればせながら!



融けるような猛暑のなか、皆様はいかがお過ごしでしょうか?

私にとっての夏と言えば、10代の頃からバイクレース一色だったものですから、やはり鈴鹿八時間耐久レースです。毎年7月末に開催(今年で何と三十三年目!)されるのですが、バブルの頃にはお客様が十七万人も入るような大きなレースでした。

私も数年前には出場した事もありましたし、四十歳を過ぎた今でも、そのうちまた挑戦してやるぞ!と(※密かに)思っています。

もちろんこの景気の悪い中、今年は出場しなかったのですが、世界を代表する日本のバイクメーカーも、業績の低迷から自肃ムードで、出場者が減っているという事でした。寂しい限りです。

ところが、そんな中、私の大先輩の有名ライダー、何と今年六十歳!

水谷勝さんが出場されました。

気温は三十六度、私たちの走るコース上は、路面からの強烈な照り返しのため、気温は五十度を超える。そんな中170キロの車体を抱えて、二人のライダーワークを交代しながら走り続けるのです!

元気な大人と言えば、もう一人強烈な方に、今年の五月にお会いしました。北山宏さんと言つて浦和にお住まいの方です。

実は私は、今年の五月に久々の連休をいただいて、グアムにダイビングをやりに行きました。アドバンスというライセンスの講習に出ていたのですが、そこで北山さんと一緒に一緒したのです。

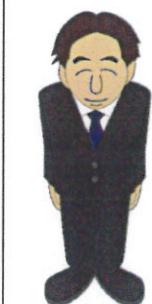
とは言いながらも、猛暑が続きますから、無理は禁物です!私たちも、秋になるまで自粛して、次なる活動の準備期間にあてています。
くればれも、今はご自愛下さい。

年は出場しなかつたのですが、世界を代表する日本のバイクメーカーも、業績の低迷から自粛ムードで、出場者が減っているという事でした。寂しい限りです。



写真はライディングスポーツ誌から転用

北山さんは何と七十歳オーバー
写真を見ると若く見えますが



ウイルさいたま
0120
797
739 will

<http://www.will-saitama.jp>

先月は、このウイルかわら版に選挙の応援のお願いなどを同封させていただき、それによつて一部不快に思われた方がいたと伺いました。この場をお借りしましてそのお詫びと、応援して下さった方へのお礼を申し上げたいと思います。



正直言つて政治オーナーな私は、思いがけないとから選挙の手伝いをすることになり、また今までない体験をしました。私が普段、経営について相談に乗つていただいている先生が、その更に恩師から乞われて、先の参院選に比例区から出馬したわけですが、先ずはその結果のご報告から申し上げます。

残念ながら、当人も応援者も初心者揃いで、私たちなりに頑張つてみたものの、予想以上に厳しい結果に終わる事になりました。素人っぽい感想ですが、選挙つて本当に大変なものですね。勉強になりました！（汗）

その活動を振り返つてみると、先ずは母親に怒られるところから始まりました。

ちなみに私の両親は神奈川で石材業を営んでおりましたので、その母親からいきなり電話で叱られました。

「あなたねえ、昔から言つてるじゃない！商人は、政治の話はタブーなのよ。」…はい、確かにそう言られて育つたと思います。たしかそれに、「宗教と好きな球団」の話もタブーのなかに加わつていたように思います。（墓）石屋の息子が、どういう巡り合わせか葬儀社になつたわけですから、小さなころから神道、仏式ほか、さまざまな宗派の方々とお付合いがあり、今もそれが続いておりますので、宗教のお話はある種複雑な思いです。

まあそれは置いておくとして、今回の事で嬉しかった事もありました。久しぶりにお電話をしさうたことです。あとで振り返つてみると、さらその有難さに気付かされました。



今月のおすすめ書籍

自分で書いていたながらも、今月も行き当たりばつたりのコーナーですが、実は私の師匠の一人の「橋爪謙一郎」さんが（6月に）また本を出しました！

大変お騒がせしました！
そして、本当にありがとうございました！



ウイル8月の行事予定

- 8/24(火) 18:30さいたま建設的な生き方を学ぶ会（大宮、ウイル）
- 8/25(水) 19:00東京建設的な生き方を学ぶ会（大森、東西株）
- 8/26(木) 6:00大宮駅西口駅前街頭清掃
お気軽にお問い合わせください！
0120-797-739

8月中、『家族葬を学ぼう』セミナーは、お休みです。暑いですから、皆さんくれぐれも無理しないでください。

「お父さん、葬式はいらない」と言わないで、橋爪謙一郎著

小学館101新書 七二〇円+税

橋爪さんは、本場アメリカでグリーフサポート（遺族の心のケア）

とエンバーミング（遺体保全、修復）

を習得して日本に持ち込んだ第一人者なのです。そして、私の良き相談相手です。

「葬儀はいらない」なんて本が注目されました。そのため意識し

た書店さんが、ちょっとイケてないタイトル（ごめんなさい！）をつけてしまつたようですが、でも、良い本なのでぜひ読んでみてください。

私たちのように遺族のサポートと向き合つている者にとってのバイブルと言つても大きさではない程度の本です。是非どうぞ。

本であります。是非どうぞ。

自分では書いていたながらも、今月も行き当たりばつたりのコーナーですが、実は私の師匠の一人の「橋爪謙一郎」さんが（6月に）また本を出しました！

大変お騒がせしました！
そして、本当にありがとうございました！

